

差別のない社会を作るため
声をあげる勇気を

当時はハンセン病患者だ
けでなく、その家族も、偏
見や差別を受けてきまし
た。「ハンセン病患者はか
わいそうな人たちだ、と
同情を誘うような問題では
なく、自分にも加害責任が
あるのではないかと考える
ことが重要」と黄さんは話
します。力を持った人の言
うことを鵜呑みにせず、お
かしいことはおかしいとい
う。声をあげる勇気を持つ
ことが大切なのです。

ハンセン病患者家族は、
今でもさまざまな問題に悩

まされています。差別を恐
れ、自分の親がハンセン病
患者だったことを隠す人
葬式や結婚式に呼ばない
人、遺骨を取りにこない人。
黄さんも、50歳になるまで、
周りに家族がハンセン病だ
とは言えなかつたそうで
す。「自分の親を看取りた
くない子どもがどこにいる
でしょうか。決して本心で
はない。そうさせてしまう
社会構造ができてしまっ
たことが問題なのです」

と、黄さんは話しました。
2016年、国に対し
熊本地裁に提訴し、ハン
セン病家族訴訟が開始し

ハンセン病患者家族は、
今でもさまざまな問題に悩



▲得意のギターを披露する黄さん

ました。その原告の中に、
黄さんも含まれています。
2019年、ハンセン病患
者に対する誤った隔離政策
による家族への差別被害を
認め、国に賠償を命じまし
た。黄さんは訴訟原告団と
して、安倍首相（当時）と
面談。ハンセン病患者家族
の立場を認めてもらったこ
とで、一歩前進したと感じ

theme 2

さまざまな体験を通して「気づき」や「成長」に。 「日野学園、日野高校、日野高校、ひのっこ保育所の取り組み」

【日野学園】

独自教科のはばたき科や
道徳をはじめ、各教科での
学びや行事、友達との関わ
りを通して、学校や学級の
中で一人一人の存在や思い
が尊重されるように取り組
んでいます。

また、地域のさまざまな人
との出会いを通して、人権問
題や生き方について考える取
り組みを行っています。

●学力の向上

一人一人の児童、生徒が
主体的に学習に取り組むこ
とで確かな学力を身に付け
られるよう、授業改善と家
庭学習の充実を図っていま

たそうです。

「私の孫は、ハンセン病
だった母から言えば、ひ孫
になります。この子たち
が「僕のひいおばあちゃん
はハンセン病だったよ」と
言ったとき、差別を受ける
ことがない社会になってい
るでしょうか。そんな社会
にしなくてはなりません」
と、講演をしめくりまし

た。

最後は、観客に向けてギ
ターの弾き語りを披露。ハ
ンセン病患者家族の思いを
したためた、黄さん作詞作
曲の「閉じ込められた生命」
「思いよとどけ」や、童謡「ふ
るさと」朝鮮民謡「アリラ
ン」などを演奏し、差別の
ない穏やかな社会になるよ
う、心を込めて歌いました。

す。特に、授業では自分の
考えをしつかり表現し、友
達との関わり合いを通して
考えを深めていく集団づく
りを目指しています。

●はばたき科

4年生は、福祉について学
習をしています。4年生全
員が健康ゲーム指導士の資
格を取り、高齢者の方と交
流を図ったり、車いす体験
や高齢者疑似体験をしたり
することで、誰もが暮らし
やすい社会をつくるため自
分に何ができるのか考えな
がら学習に取り組みまし
た。10月には手話ボランティ
アの方を講師として招き、

手話学習をしました。手話
について学んだことをなか
よし集会で1、6年生の児
童や保護者に伝え、全員で
「ふるさと」という曲を手
話で表現しました。

6年生は、人権問題につ
いて各自がテーマを決めて
調べ学習を進め、分かった
こと、感じたことを学級で
話し合いました。また5月
には、下榎隣保館の飛田館
長に「日野町の取り組み」
についてお話を伺い、11月
には、下榎隣保館にて解放
文化祭の展示作品を見学し
たのち、生田教育長から「人
権の大切さ」についてお話



▲生徒の意識を高めた人権弁論発表



▲車いすを体験する児童

を伺いました。

後期課程の生徒（7年生（9年生）は、鳥取県人権作文コンクールに取り組みました。また、この作文をもとに生徒全員が人権について自分が思うことをまとめ、10月下旬に学年人権弁論大会を行い、発表についての感想や意見を出し合い、考えを深めました。

この取り組みは、生徒自身の人権意識を高めるとともに、ほかの生徒が人権についてどんなことを考えているのかを知ることになり、学級内の人間関係の質的向上を図る良い機会になっています。

11月2日の人権弁論大会

では、各学年代表が1人ずつ人権弁論を発表しました。さらに11月10日に行われた日野郡中学校総合文化祭では、学校代表の生徒が堂々と人権弁論発表を行いました。

●文化祭

学年ごとに、さまざまなテーマで発表に取り組みました。与えられた役割に対して取り組みことで、お互いの関わり合いを深め、新たな良さを発見しました。

●人権教育参観日

2月7日に人権教育参観日を実施し、各学年で年間指導計画・各学年の実態に

合わせた人権に関わる学習を行う予定です。

人権に関して子どもたちが学ぶ様子を保護者の皆さんに見ていただいたり、人権に関わる講演会を実施したりすることで、保護者の皆さんにも人権に対する理解を深める場になることを期待しています。

【ひのこ保育所】

ひのこ保育所では、「自分らしく生き抜く力をつちかす」を保育理念としています。子どもたちがさまざまな経験や人との関わりを通じて自己を発揮し、「毎日が楽しい」と感じられる保育、また、混沌とした

分に体を動かし、さまざまなことに対応していける健康でしなやかな体力づくりにつながっています。継続することで普段の身のこなしや姿勢などにも変化が見られ、積み重ねの大切さを実感しています。また、運動を通して異年齢の友だちとも関わり、友だちのがんばっているところを認め合っています。

園の敷地周りを走るマラソンにも継続して取り組み、体力の向上につながっています。秋には、保育参観日にマラソン大会を行い、保護者の方に、子どもたちががんばって目標を達成しようとする姿を応援していただいたり、一緒にマラソンに参加していただいたりして、爽快感や達成感、喜びを共有できる時間となっています。

●食育活動・平和学習を通じて
地域の皆さんのお世話になり、サツマイモやジャガイモの植え付けと収穫、アユの放流、アユつかみ、もちつきなど、年間を通してさまざまな体験をしています。

現代社会の中でたくましく生きていく力の基礎となる「自己肯定感」を、子どもたちが一人一人が持てるような保育を目指して日々活動しています。

●運動を通じて
3歳以上児は朝の活動で、歌やリズム運動、ストレッチで十

す。地域の皆さんの温かい言葉やまなざしの中で、人と関わることの心地よさや温もり、命の大切さを感じることが出来る機会を作っています。

その他にも、労働の大切さや苦勞、収穫の喜びを味わい、それらを生きていく力につなげたいという思いから、菜園活動、バケツでの米栽培、クッキング活動なども行っています。

8月には、広島・長崎への原爆投下の日や終戦の日に合わせて、戦争の悲惨さを写真や絵本などを通して話し、命の大切さや現在の生活のありがたさ、「戦争は決してしてはならない」とを伝えていきます。

今後、子どもたちが豊かな心を持ち、健やかにたくましく心身ともに育っていきけるよう取り組んでいきます。

【日野高校】

日野高校では、人権教育の全体目標を「さまざまな人権問題に対する正しい認識と理解を深め、差別解消に取り組む意思と実践力を育成する」「自己肯定感をはぐくみ、多様な他者と